

村上 松平 議員



一括質問方式

- ① 情報通信基盤整備事業
- ② 観光まちづくり戦略ビジョンの見直し
- ③ ふるさと納税返礼品の新たな取り組み

情報通信基盤整備事業について

問 事業の工程と完了予定年月日についてお聞きする。また、期間をできる限り短縮し、早期の整備完了を実現してほしいがどうか。

答 工事着手は11月の予定で、完了時期は整備範囲が市内全域であるため、今年度中の完了は困難であると考えており、令和3年度末までの事業期間を想定しています。

整備期間の短縮については、光回線の設備等を新設する局舎もあるため、完了には相応の工期が必要になると伺っています。

市としても少しでも早く整備を図るため、施工業者に対し工期短縮を要請しています。工事は全地域で一斉に始まりますが、サービスの提供は整備が完了した局舎単位で始められます。工事の状況では開設時期が異なるため、開始時期や地元説明会の日程等は、「広報おおず」やホームページ等で随時お知らせしたいと考えています。

観光まちづくり戦略ビジョンの見直しについて

問 観光まちづくり戦略ビジョンは、7月から城泊がスタートするなど期待されるが、コロナ禍による影響は大変厳しい。終息が見えない中で事業を進めることは、焦点がずれているように思う。1年から3年程度の見直しを早急に打ち出さなければ、つまづく可能性が高いのではないかと懸念されるがどうか。

答 町家・古民家等の歴史的資源の活用に関しては、町家・古民家等を改修し、これを観光ビジネスに活用する民間事業者を国と自治体とが支援していく性格の官民協働の施策で、地域の活力向上や大洲特有の町並み保全などを目標とするものです。昨年度改修した町家8棟の分散型ホテルは、7月23日のグランドオープン以来、運営会社の想定を上回る稼働率で推移し、感染症の影響で観光客が減少する中で大洲が泊まれる観光地になったことを示す大きな一歩だと考えています。

また、市内から15名が雇用され、新たな経済需要と雇用創出に対する一定の成果が上がっていると考えています。

今後、感染症により再び移動制限などの事態も危惧されますが、通過型から滞在型の観光地へ衣替える第一歩を踏み出したところであり、短期的な戦略は、見直しも含め関係事業者と慎重に協議を進めていきま

ふるさと納税返礼品の新たな取り組みについて

問 本市でも、ふるさと納税制度開始から比べると、全国から多くの寄附金をいただくようになった。

返礼品を体験や話題作りを兼ねた返礼品にしている自治体もあり、大洲の魅力を体験してもらうために観光資源を返礼品にするのが一番ではないかと思うがどうか。

答 令和元年度の実績は、2,659件、7,121万3千円で、災害支援の寄附を除いた額と比較すると、約20%の増です。

本市でも、市内施設の宿泊券や来訪時に利用できるクーポン券等の商品を提供していますが、返礼品を城主体験やうかい体験などの体験型返礼品に設定することは、本市の魅力向上や寄附額の増加につながる有効な取り組みとして期待できると考えています。

一方で、その実現のためには様々な課題の解決も必要であるため、今後提供事業者等と連携し、問題解決に向けた協議・検討を前向きに進めていきたいと考えています。